

名義抄に、往古山科村に芋掘藤五郎住み居たる比、小牛を三疋金にて鑄立て、山内に埋みたり。故に三小牛山・三子牛村と申由傳承仕。とあり。此は三子牛村にての傳説なるべし。一説に、三子牛村の持山に藤五郎池とて清水あり。芋掘藤五郎掘りたるよし云ひ傳へたりとぞ。此は何れの地なるか、今詳かならず。又二子塚は、富樫郷寺地内の地内にて、今大乘寺の門前なる畠中にあり。寛政九年五月墳上に碑石を建て、碑面に詩一首俳諧數十句を彫刻せり。其の詩。

題二子塚

雲花遠覺美□。虛月深留藤五冢。多少照通無盡藏。染來風色品々種。

又寺町伏見寺に、藤五郎の肖像とて古木像あり。此の寺は藤五郎山科村伏見山に建立せし處、亂世に中絶したるを、元和元年快存法印今の寺町の地を賜はり再興すと、寺記にあり。

○金澤源次居蹟

拾纂名言記に云ふ。芋掘藤五郎と云ふ者、此の澤にて金砂を掘り出すにより金澤と云ふともいへり。其の跡堤と成り

て、端に町屋あり。云々。昔此の堤の端に金澤殿といふあり。先祖誰とも知らず。大桑屋與兵衛と云ふ者先祖當所久敷者にて申し傳へたりとぞ。或は云ふ。右金澤殿といふは、金澤源次なるべしといへり。按ずるに、金澤源次は、富田景周の金澤紀事に、以鎌倉大君與弟廷尉義經闕城。廷尉微行于本州之時。州之士著士有金澤源次。是時也今之苗字未起。以地冠姓。云々。と載せたり。右は文治三年二月源義經奥州下りの時、加賀國安宅關を過ぎ、一里許往かれけるに、井上左衛門に行き遇ひける。井上が家人金澤源次といふもの云々。といふ事、盛長私記に見えたり。但し右盛長私記といへる書は、後世の贋作にして據としがたきものなれど、金澤源次が名は古書に據つて載せたりけん。一説に、昔金洗澤の地邊をば、金澤庄とす。金澤源次は此の庄の地頭ならんか。

○金澤庄

國事昌披問答に云ふ。金澤庄と云ふは、金谷門より蓮池亭の邊と云ふ。按ずるに、古傳説に據つていへるなるべし。三州志來因概覽に云ふ。金澤の號は、古庄號の擴充して後に國

都の名と成りたるならん。其の故は加賀の古庄名に金澤庄あり。金谷門より蓮池の亭地、學校邊をいふと也。新安手簡に、江戸の名も庄名より出づるならんとあり。平次按ずるに、金澤の庄名いまだ古文書中には所見なけれど、月坡禪師全錄に載せたる獻珠寺鐘銘に、加賀州石川郡金澤庄小立野村と記載す。此の文に據れば、寛文・延寶の頃までも此の庄號をいひ傳へたりしと聞ゆ。小立野村といふは、今小立野の町地をさせるものなり。又關屋政春の古兵談に、丑十一月二日夜の夢に、金澤は加州石川郡佐部江庄との文字體に見えたり。古人の物語にも嘗て聞かず。不審しといふ事を載せたり。右は夢物語なるがゆゑに論ずるに足らず。

○金澤寺遺址

眞言宗卯辰永久寺由來書に云ふ。往昔は白山の社僧にて一王寺と號し、天文八年の頃より傳言之趣有之。其以後金澤へ出で、城山の邊に居住仕、金澤寺と改稱致し、文祿年中に住職木食長意と申者住持の頃、祈禱寺に被仰付。慶長七年淺野川河上にて寺地被下、三代秀雅移轉仕。寛永四年淺野川寺地召上げられ、卯辰山に於て替地拜領、再轉仕けり。

寺號改稱は、利常卿小松御在城の頃當寺四代秀縁獻上物の上書に、金澤金澤寺と書付上る處、御覽被成、金澤山永久寺と改號致すべき旨、竹田市三郎を以被仰出、夫より金澤山永久寺と稱す。とあり。按ずるに、寶幢寺所藏正保二年閏五月八日本多安房守等連署奉書に、眞言宗金澤金澤寺と載せられたれば、永久寺と改稱せしは正保以前の事なるべし。其の舊地は城山の邊と傳承すれば、金洗澤の近邊なるべし。故に舊寺號金澤寺と號せしと聞ゆ。卯辰明王院も、貞享二年の由來書に、昔は本多安房屋敷の地に居住仕、金澤山愛宕寺明王院と號すと見え、卯辰愛宕社緣起にも、往古社殿在今本多房州第地。山號金澤山。寺號愛宕寺明王院。とあり。本多氏の邸地は、金洗澤の近邊にてそのかみ此の地邊をば金澤庄など、稱せしゆゑに、山號になしたるなるべし。臨濟宗卯辰國運寺および日蓮宗卯辰妙應寺、此の兩寺の山號も金澤山と號す。是も明王院と同じく、小立野廣坂の高邊に、そのかみ寺地ありけるにより、金澤山と山號を呼びたるならん。

○出羽町